



鈴鹿の

レガシー

遺産

～写真でみる80年～

その6

1942(昭和17)年12月1日に誕生し、今年で市制施行80周年を迎える鈴鹿市。80周年にちなみ、このコーナーでは本市の発展を振り返ります。

市制施行80周年記念 みんなで創ろう!レガシー事業(桜島小学校)

みんなで創ろう!レガシー事業は、市制施行80周年記念事業として、市内の小・中学校が、学校単位で自由な発想により企画した取り組みを行う事業です。

今回は、桜島小学校のレガシー事業の取り組みを紹介します。

事業名:もっと知ろう、もっと好きになろう、世界の国々のこと!そして、共に生きていこう!

桜島小学校では、外国につながるのある子どもたちがたくさん在籍している強みを生かし、さまざまな国に関する学習を行いました。

世界のあいさつを知る

国際委員会の児童が、世界地図上に各国のあいさつを掲示しました。



世界を知ろう!「国旗かるた」

全ての学年で、世界各国の特徴を知ることができる「国旗かるた」を体験。さまざまな国への親しみにつなげました。



世界を学ぶ

英語の授業で、外国につながるがある児童の関係国の位置を地球儀で確認し、世界各地にルーツがあることを学びました。また、各国の民族衣装や料理などを五感を使って学習しました。



モータースポーツお宝探検隊 vol.18

昨年12月、市役所本館で行われた「SUZUKA eMotorSports Experience 2022」の場で、NPO法人鈴鹿モータースポーツ友の会では、「モータースポーツお宝ステッカーチャリティー」を実施しました。貴重なステッカーの数々を出品したこともあって、大きな反響がありました。

このステッカー提供者の一人が、藤岡邦雄さん(67歳 磯山)。藤岡さんは富山から本田技研工業(株)鈴鹿製作所に就職し、同社の2輪チーム「鈴鹿レーシング」や鈴鹿サーキットでのオフィシャル活動に携わるなど、モータースポーツと歩んだ方です。ホンダ在職時代、共に車両開発を行っていた佐々木秀六さん(75歳 鈴鹿ハイツ)が今回のチャリティーに協力することを知り、「思い出深いステッカーですが、しまい込んでしまうより、人のお役に立てて、喜んでいただけるのなら」と自らのコレクションを出品されました。

鈴鹿モータースポーツ友の会では、今後も同様のチャリティーを実施し、社会貢献を行っていく予定です。



▲藤岡さんの貴重なコレクション(一部)

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード



子どものころ、学校の授業は当たり前のように行われるものだと思っていました。今回特集で学校取材すると、その裏側では、先生や介助員さんなど教育現場の皆さんが、子どもたちのために、見えない努力や工夫をされていることを知りました。ある先生は、「工作などをするときには、子どもに自信をつけてもらうため、必ず成功できるように作業の手順を考えている」と話され、授業の準備を念入りに行われていました。また、介助員さんは「難しい言葉をかみ砕いて、子どもたちに伝えるようにしている」とのことでした。

さまざまなニーズがある学校。それを全て満たすことは難しいように思います。それでも、「一人も取り残さない」の思いで取り組む教育現場の皆さんに、尊敬の念を持ちました。(晴)